

ビットフューリー、日本初となるビットコイン・マイニングファンドを組成

東京、2020年6月10日 - 本日、ビットフューリーグループは、日本初となるビットコイン・マイニングファンドの組成を発表しました。このファンドは、金融商品取引業者の日本エンジェルズ・インベストメント株式会社（関東財務局長（金商）第922号、以下「NAIC」）を通じて募集されます。このファンドにより、個人投資家や機関投資家は、分散投資の一環として、デジタル通貨インフラストラクチャーを投資ポートフォリオに加えることが可能になります。

NAICは、金融商品取引業者として、ビットフューリーグループ（投資対象となるマイニングファームを含む）に対するデューデリジェンスを実施してきました。本ファンドの参加者は、カザフスタン共和国においてビットフューリーが運営している中で最上位のマイニングファームに投資します。

ビットコイン・マイニング事業は高い投資リターンを得る可能性があるものの、本邦においてはこれまで、投資可能な手段が普及していなかったために、機関投資家においても、この事業への投資にはあまり積極的ではありませんでした。本ビットコイン・マイニングファンドやビットフューリーグループの機関投資家プログラムを通じて、投資家はカザフスタン共和国を中心に、ビットフューリーグループが運営する最上位のマイニングファームに投資することが可能になりました。

ビットフューリーグループのCEO兼創業者であるヴァレリー・ヴァヴィロフは、以下のように述べています。

「日本の投資家の皆様に多様な投資手段を提供できることを楽しみにしています。新型コロナウイルスの影響により、市場はかつてないほどの変化とボラティリティーを経験しています。このような時期に、当社が運営するビットコイン・マイニング事業への投資を行うことで、その基盤となるインフラストラクチャーをよりセキュアなものにし、デジタル資産のさらなる普及に貢献されると確信しています。」

ビットフューリーグループの日本代表である紺野勝弥は以下のように述べています。

「日本で初めてとなるビットコイン・マイニングファンドを、日本の規制を正しく遵守した形で組成でき、日本の暗号資産市場へも貢献することができてとても嬉しく思います。新型コロナウイルスの影響により、他の資産クラスのリスクとリターンのプロファイルが大きく変化している時期に、1,000兆円を超える日本の銀行預金残高に対し、安定的に高い投資リターンを得る可能性のあるポートフォリオへの投資機会を日本の投資家に提供できることは大きな意味を持ちます。日本で初めてのチャレンジングな取り組みをしてくださった日本エンジェルズ・インベストメント株式会社の皆様、リーガル面でサポートを下さったアンダーソン毛利友常法律事務所の河合健弁護士に、多大な感謝を申し上げます。」

ビットフューリーグループについて

ビットフューリーグループは、世界をリードするテックスタートアップ企業です。当社は、ミレニアム時代における最も重要な技術を用いて、未来のためのソリューションを構築しています。

2011年に設立された当社のミッションは、ハードウェアとソフトウェアのあらゆるレベルのテクノロジーを革新することで、世界をより信頼され、安全なものにすることです。

ビットフューリーは、人工知能、ブロックチェーン技術、デジタル通貨のソリューションをビジネス領域としています。当社は、ビットコイン・ブロックチェーンおよびインフラストラクチャーにおけるリーディングプロバイダーです。ビットコイン・ブロックチェーンをセキュアに維持するだけでなく、当社は、半導体チップのカスタマイズやモバイル・データセンターの運営など、デジタル資産やブロックチェーンを安全に保つ革新的なハードウェアの設計・製造も行っています。また、Exonum™（プライベートブロックチェーン・フレームワーク）、Crystal™（ブロックチェーン高度分析プラットフォーム）を通じて、世界でも最先端のソフトウェアを提供しています。

当社の音楽エンターテインメント部門であるBitfury Surround™は、アーティストや音楽業界のその他の関係者が直面する課題に対処するためのブロックチェーンソリューションを設計しています。

詳細については、www.bitfury.com をご覧ください。

ビットフューリーグループ メディア連絡先

Rachel Pipan

rachel.pipan@bitfury.com